

# 助産診断技術学Ⅴ

|              |                  |        |        |
|--------------|------------------|--------|--------|
| 責任者・コーディネーター | 成育看護学講座 西里 真澄 講師 |        |        |
| 担当講座・学科(分野)  | 成育看護学講座、産婦人科学講座  |        |        |
| 対象学年         | 4                | 区分/単位数 | 講義/1単位 |
| 期間           | 前期               |        |        |

## ・学修方針(講義概要等)

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な診断法や検査法、その際に必要な助産ケアの実際について、その基本を理解する。具体的には、妊娠期に行われる超音波断層法診断の実際、分娩損傷と創部縫合術の実際、新生児蘇生法、分娩監視装置の判読と異常時の対応、腹式帝王切開術における術前から術後を通しての一連の助産ケア、分娩誘発・促進時の助産ケア、保育器に収容された新生児への助産ケアおよび出生前診断と助産ケアについて学ぶ。

## ・教育成果(アウトカム)

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に必要な診断法や技術について基本事項を学ぶことにより、必要な助産ケアを考えモデル人形等を用いて基本手技を実施することができる。また異常時の対応が必要な事例に対する助産ケアについて、留意事項をふまえながら、基本事項を理解することができるようになる。

### 【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

|   |  |
|---|--|
| 2 | 生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。                        |
| 3 | 看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。                                    |
| 4 | 看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。      |
| 5 | 患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。           |
| 7 | 保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。 |

## ・到達目標(SBO)

1. 周産期診療の中で行われる諸検査(超音波断層法診断、骨盤X線撮影、分娩監視装置の判読など)、治療について、基本事項を理解し説明することができる。
2. 分娩誘発や促進、分娩時の麻酔の管理について、留意点を意識しながら基本事項を理解し必要な助産ケアを説明することができる。
3. 異常発生時の母子への介入に係る手技(胎児機能不全への対応、超緊急腹式帝王切開術、産科危機的出血への処置、産婦に対する一次救命処置)について、基本事項を理解し一連の助産ケアを説明することができる。
4. 会陰切開及び裂傷後の縫合について基本事項を理解し、手技の実際を演習にて実施することができる。
5. 出生直後の新生児の状態評価とルーチンケアの基本事項を理解し、蘇生の初期処置の必要について説明することができる。
6. 出生直後の新生児の状態評価とルーチンケア、蘇生の初期処置の実際を演習にて実施することができる。

会場: マルチ3-A実習室

| 月日<br>曜日<br>時限 | 授業内容/到達目標   | 担当教員               |
|----------------|---|--------------------|
| 4/9<br>火<br>3限 | <b>【授業内容】</b> 周産期総論<br>・助産師として共に携わる本邦産婦人科治療の実際を理解できる。<br><b>【関連するSBO】</b> 1<br><b>【事前学修:60分】</b><br>・教科書(助産学講座6)P2~4を読み、「母子を取り巻く社会背景と助産師に求められる能力」を確認する。<br><b>【事後学修:60分】</b><br>・周産期における健康上の課題と予防・診断の要点をまとめる。 | 産婦人科学講座<br>馬場 長 教授 |

|                 |  |                        |
|-----------------|--|------------------------|
| 4/12<br>金<br>3限 | <p>【授業内容】分娩誘発・促進と助産ケア<br/> ・分娩誘発・促進について説明できる。<br/> ・分娩誘発・促進に伴うリスクや有害事象、助産ケア上の注意点について説明できる。</p> <p>【関連するSBO】2、3<br/> 【事前学修:60分】<br/> ・母性看護方法論(2年後期)「分娩の生理、分娩機序」を復習する。<br/> 【事後学修:300分】<br/> ・分娩誘発・促進とケアに関して、提示されたテーマをレポートにまとめ提出する。<br/> ・分娩誘発・促進施行時の助産計画をまとめ提出する。<br/> (提出期限は授業の最後にアナウンス)</p>           | 産婦人科学講座<br>岩動 ちず子 特任講師 |
| 4/15<br>月<br>3限 | <p>【授業内容】母体救命の実際<br/> ・産科危機的出血の診断から治療を学んだ上で、母体救命において最も重要なことを説明できる。<br/> ・グレードA(超緊急腹式帝王切開術)の適応・必要性を理解し説明できる。</p> <p>【関連するSBO】3<br/> 【事前学修:60分】<br/> ・助産診断技術学Ⅲ(3年後期)「分娩期の異常時の助産ケア(危機的出血への対応)」を復習する。<br/> 【事後学修:90分】<br/> ・母体救命について要点をまとめ、WebClassに掲載された小テストにより理解度を確認する。</p>                              | 産婦人科学講座<br>羽場 徹 助教     |
| 4/17<br>水<br>4限 | <p>【授業内容】妊娠期・分娩期に行われる諸検査と助産ケア<br/> ・周産期診療の中で行われる諸検査(超音波断層法診断、骨盤X線撮影、分娩監視装置の判読など)について理解できる。<br/> ・諸検査に伴う注意事項や必要な助産ケアについて説明できる。</p> <p>【関連するSBO】1、3<br/> 【事前学修:60分】<br/> 助産診断技術学Ⅰ(3年後期)「妊娠期の諸検査に対するアセスメント」を復習する。<br/> 【事後学修:90分】<br/> ・妊娠期・分娩期に行われる諸検査と助産ケアについて要点をまとめ、WebClassに掲載された小テストにより理解度を確認する。</p> | 成育看護学講座<br>西里 真澄 講師    |
| 4/23<br>火<br>4限 | <p>【授業内容】分娩時の麻酔の管理と助産ケア<br/> ・硬膜外麻酔法、脊髄クモ膜下麻酔、陰部神経ブロックの適応・合併症・麻酔管理など基本事項を理解し、助産ケアについて説明できる。</p> <p>【関連するSBO】2<br/> 【事前学修:60分】<br/> ・疾病論Ⅱ(2年前期)「麻酔による生体反応、合併症の発症と予防」を復習する。<br/> 【事後学修:90分】<br/> ・分娩時の麻酔の管理と助産ケアについて要点をまとめ、WebClassに掲載された小テストにより理解度を確認する。</p>  | 成育看護学講座<br>西里 真澄 講師    |
| 4/26<br>金<br>3限 | <p>【授業内容】NCPR① 出生直後の新生児の状態評価とルーチンケア(講義・演習)<br/> ・出生直後の新生児のアセスメントの視点について、理解することができる。<br/> ・出生直後のルーチンケアについて、演習を通じて実践することができる。</p> <p>【関連するSBO】5、6<br/> 【事前学修:600分】<br/> ・新生児蘇生法テキストP172～186の問題集に掲載された内容を学修し、知識を補完する。<br/> 【事後学修】<br/> ・次時間事後学修参照。</p>  | 成育看護学講座<br>西里 真澄 講師    |
| 4/26<br>金<br>4限 | <p>【授業内容】NCPR② 蘇生の初期処置を要する新生児への助産ケア(演習)<br/> ・蘇生の初期処置と効果の評価等について、演習を通じて実践することができる。</p> <p>【関連するSBO】5、6<br/> 【事前学修】<br/> ・前時間事前学修参照。<br/> 【事後学修:90分】<br/> ・出生直後の新生児の観察、ルーチンケア、蘇生の初期処置について要点をまとめ、WebClassに掲載された小テストにより理解度を確認する。</p>  | 成育看護学講座<br>西里 真澄 講師    |
| 4/26<br>金<br>5限 | <p>【授業内容】分娩損傷と縫合および助産ケア(講義・演習)<br/> ・分娩介助術に伴う分娩損傷について理解することができる。<br/> ・助産師が行う分娩損傷の創部縫合術の実際を、演習を通して実践することができる。</p> <p>【関連するSBO】4<br/> 【事前学修:60分】<br/> ・助産診断技術学Ⅱ・Ⅲ(3年後期)の分娩損傷について復習する。<br/> 【事後学修:60分】<br/> ・分娩時損傷と縫合術の要点をまとめる。</p>  | 成育看護学講座<br>西里 真澄 講師    |

・教科書・参考書等

|   | 書籍名                                | 著者名      | 発行所      | 発行年  |
|---|------------------------------------|----------|----------|------|
| 教 | 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版        | 我部山キヨ子   | 医学書院     | 2021 |
| 教 | 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版    | 我部山キヨ子   | 医学書院     | 2021 |
| 教 | 日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト第4版 | 細野茂春     | メジカルビュー社 | 2021 |
| 教 | 胎児心拍数陣痛図の評価法と対応 第4版                | 日本産婦人科医会 | 医療安全委員会  | 2021 |

・成績評価方法

|  |
|--|
| <p>【総括的評価】</p> <p>・指定した提出課題(70%)、演習の取組状況(30%)にて評価する。演習の取組状況は、演習の参加状況や態度を含む。</p> <p>【形成的評価】</p> <p>・WebClassに掲載する授業内容毎の小テストにより理解度を確認する。なお、小テストの点数は成績に反映しない。</p> |
|--|

・特記事項・その他

|  |
|--|
| <p>【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】</p> <p>小テストや事後学修ノートから多数の学生が理解していない内容について、WebClassでコメントを伝える等、学生にフィードバックし、内容の理解と知識の定着を図る。</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】</p> <p>助産師(別表2):助産診断・技術学</p> |
|--|

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称                | 台数 | 使用目的         |
|------|-------------------------|----|--------------|
| 講義   | プロジェクター(VPL-FWZ60)      | 1  | 講義・演習用スライド投影 |
| 演習   | 分娩台                     | 2  | 分娩期の診断       |
| 演習   | 助産演習モデルセット(内診・分娩用外陰部Ⅱ型) | 1  | 分娩期の診断       |
| 演習   | 裂傷縫合トレーニングモデル           | 1  | 会陰切開の縫合技術修得  |
| 演習   | 縫合セッター式                 | 4  | 会陰切開の縫合技術修得  |
| 演習   | ラジアントウォーマー              | 1  | 新生児のケア 技術修得  |
| 演習   | 多目的実習用新生児モデル コーケンベビー    | 2  | 新生児のケア 技術修得  |